

# フッ素は危ない！！

## 身の回りにはフッ素が

ずらっとドラッグストアに並んだ歯磨き剤を見てください。フッ素入りがほとんどです。フッ素入りの水で洗口（口の中でグチュグチュする）をしている学校があり、虫歯処置にもフッ素が使われています。このように、フッ素は身近に迫っています。しかし、なんと言っても水道水にフッ素が加えられると、強制的に飲まざるをえなくなり、フッ素が危険なら、その害が広がり大変です。

## 独自に徹底的に調査研究

フッ素には効果があるのか、危険ではないのか。医薬ビジランス研究所では医薬品・治療研究会と共同で、薬害オンブズパーソン会議から研究委託された「う歯予防を目的とした水道水へのフッ素添加の有効性と危険性」に関して、文献を徹底的に集め、これまでの意見に左右されることなく、独自に分析し報告書を作成しました。

その結果は報告書およびその要約がインターネット上でも読めます（末尾参照）。

## ガンは確実に増える 死亡もたぶん

ヒトにとって、歯だけでなく全身が健康でなければ意味ありません。フッ素は動物にもヒトの細胞にもほぼ確実に突然変異や染色体異常を起こします。

動物にがんを起こす量は、ヒトが日ごろから口にする可能性のある量の2倍から4倍に過ぎません（注1）。実際、ヒトの疫学調査や動物実験の結果をよく見ると、まれな骨や関節のがんだけでなく、種々のがんが増えています。これはWHOやアメリカでフッ素は安全という根拠になったデータを詳しく調べた結果です。死亡率全体にもたぶん影響すると考えられます。

たとえば、表はヒトの疫学調査でがんとの関連がないとされた報告（Hooverら、1991年）に記載されていたものです。フッ素を水道水に添加した地域は（地域の60%以上が添加）は、添加していない地域に比較して、口やのどのがんが1.2～1.6倍に増加しています。しかも2地域を5年ごとに区切った場合の27項目中、17項目が統計学的に有意でした。

このほか、大腸や直腸がん、肺がん、がん全体が有意に増加すると推定されましたし、骨、関節のがんでも増えるようです。

表 口腔咽頭癌罹患のリスク比(\*a)とその95%信頼区間(フッ素化期間別,性別)

性	フッ素化の期間(年)				
	<5年	5~9年	10~14年	15~19年	20年~
アイオワ州計	1.2 (0.8-1.8)	<b>1.6</b> (1.1-2.3)	<b>1.5</b> (1.2-1.9)	<b>1.6</b> (1.7-2.1)	<b>1.6</b> (1.4-1.9)
男	0.8 (0.5-1.4)	<b>1.6</b> (1.1-2.4)	<b>1.5</b> (1.1-2.4)	<b>1.6</b> (1.3-2.0)	<b>1.6</b> (1.4-1.9)
女	<b>2.2</b> (1.3-3.8)	1.6 (0.9-2.3)	<b>1.6</b> (1.1-2.3)	<b>2.0</b> (1.4-2.8)	<b>1.6</b> (1.2-2.0)
シアトル 計	1.0 (0.8-1.3)	<b>1.2</b> (1.1-1.4)	<b>1.2</b> (1.1-1.3)	0.9 (0.8-1.0)	----
男	1.0 (0.6-1.4)	<b>1.2</b> (1.0-1.4)	<b>1.3</b> (1.1-1.5)	0.9 (0.7-1.1)	----
女	0.9 (0.6-1.4)	<b>1.2</b> (1.0-1.4)	1.1 (0.9-1.3)	0.8 (0.7-1.1)	----

(\*a) 同じ地域(それぞれアイオワ内、シアトル内)の非フッ素化地区の危険度を1.0とし、これに対する、年齢、歴年、および、男女合計では性も調整した相対リスク  
 : 非フッ素化地域に対するフッ素化地域のリスク比が**統計学的に有意**

## 虫歯予防と斑状歯は裏腹

フッ素を加えた水道水を6人が飲むと、虫歯のない子が1人増える一方で、フッ素による斑状歯は(歯のフッ素症:注2)をもつ子が1人増えると推定されています。斑状歯の4人に1人はかなり問題の斑状歯です。しかも、高い社会階層の子は虫歯が少なく、最近ではフッ素を水道水に添加していない国(日本を含め)でも添加している国と同じように虫歯は減ってきています。

注1:日本人の20人に1人は1日あたり2.3mg~3.3mg、100人に1人は3~4mgを食事や飲料水からとっている。そして、動物(ラット)でがんが認められたフッ化ナトリウム濃度100~175ppmは、体表面積で人摂取量に換算すると、1日あたり6~12mgに相当する。

注2:斑状歯は現在では「歯フッ素症:dental fluorosis」と呼ぶのが正しい。「斑状歯」はフッ素との関連が判明する以前に用いられていた用語。歯のエナメル質(表面の光沢のある部分)ができる時期にフッ素を過剰に摂取することによってエナメル質組織ができにくくなる病気(エナメル質形成不全)のことを言う。

軽い場合には歯の表面の一部がチョークのように白く光沢がなくなる。進んでくるとその部分が茶色くなり、範囲も広くなり（イラスト参照）、さらにひどくなると、歯の先端が欠けてくる。

## ダウン症との関連も決して否定されていない

ダウン症との関連を支持する疫学的調査が少なくとも3件あります。関連を否定する調査もありますが、否定しきるほど質はよくありません。フッ素は染色体異常を起こす物質です。染色体異常で起きるダウン症が関連なしと考える方が難しいでしょう。

## 結論：フッ素は危険！

詳しく検討すると、**フッ素を水道水に加えると危険です。有益性はほとんどありません。健康な歯は大切ですが、わずかな虫歯への効果で、全身の健康を犠牲にするべきではありません。別の方法で虫歯が予防できている人には有害でしかありません。水道水へのフッ素の添加はしてはならないと思います。**

詳しくは、医薬ビジランス研究所と医薬品・治療研究会が、薬害オンブズパーソン会議から研究委託された「う歯予防を目的とした水道水へのフッ素添加の有効性と危険性」に関する報告書（原文：A4 版約80頁）、および TIP 誌 2002 年 8.9 月合併号（報告書を約1/4 に要約したもの）参照。

調査研究報告書全文：<http://www.yakugai.gr.jp> および <http://www.npojip.org>、

T I P 誌掲載の内容：<http://www.npojip.org>